令和５年度　中央幼稚園　外部評価報告書
評価委員：鈴木一弥委員長、神﨑忠久副委員長、鈴木英子委員、髙安正美委員、片山英治委員、豊田一成委員 報告書作成者：鈴木一弥委員長
評価時期　　令和６年２月

１　重点目標の評価

重点目標１について

保護者の評価は「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が概ね９割を得ていて目標はおおむね達成されているとの評価だった。教員の評価が保護者より低いのは、重点目標１に限らず教職員の自己評価に厳しい姿勢があるからだと考える。今後も重点目標１の主体的遊びを楽しむことができる環境構成、活動内容、きめ細かな指導の工夫が求められる。

重点目標２について

評価項目①－１の挨拶や人とかかわることにおいては、教職員だけでなく、保護者がモデルとなって気持ちのよい挨拶を行っていくことが求められる。評価項目②の栽培物や自然物とのかかわりについては、保護者の関心が高まる中、園舎の恵まれた環境の中での幼稚園の取組を評価している。保育活動の中で、ICT を活用した取組など、継続して充実させていってほしい。

重点目標３について

評価項目①の体を動かして遊ぶことについては、保護者の肯定的な評価は概ね９割である。保護者が「運動遊び教室」「わくわく親子デー」の参加参観を通して、感じられている。遊びや生活を通した遊びや環境の工夫や、屋上校庭への日々の昇降も体力向上につながっていると考える。評価項目②については、家庭と園の連携が必須となってくるので、今後とも取組の継続が求められる。

２　今後の改善に向けた意見

今年度も、健康な体力・安全な生活の取組において、発達に応じた指導を重ね、いろいろな動きを経験できるよう取り組んでいた。行事を参観することができたのは、大変よかったので、地域や保護者への周知を継続して行ってほしい。幼稚園ホームページの活用などで、情報の公開はなされているので、継続していってほしい。

３　その他の意見

地域の中での交流が減っている今、道徳教育は学校・幼稚園だけでなく、保護者や子どもたちのまわりで生活する地域の人々にも関わりのある課題である。地域・保護者ともに手を取り合って子どものことを考えるという視点を持ち続けてほしい。アンケートの項目以外を選択する以外に、教職員について自由記述があってもよい。